

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、「住み心地の良い家庭的な環境のもとで、役割と楽しみを持ち、生きがいのある自分らしい生活を送る事ができる」という理念をかかげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室や共用ホールに掲示しており、毎朝申し送り時、当日の勤務スタッフ全員で「基本理念」を三唱している。また、新規の採用職員には採用時の研修で理念の意味を伝え、職員全体で共有できるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場や地域との交流行事の場で、家族の方や地域の方々にも理解していただけるようはたらきかけている。また、家族には入所時に理念の説明もおこなっている	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議に出席されて居る地域の代表者の方々には、通りかかったときに寄ってお話でもしていきたくて言葉を頂いており、事業所としても見学や訪問は出来る限り受け入れる体制はありません。地域行事には職員や可能な場合には入居者も含め参加している。(総会、新年会、盆踊り大会防災訓練等。	○
			前管理者はキャラバンメイトの活動に参加して居た為、計画作成担当者や職員はキャラバンメイトの講習を受講予定であり、地域の活動参加していくことを継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>ち</b>			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>評価の大切さの意義を職員間で理解していくよう努め、全職員で意見交換していきながら作成していけるよう努めたい。</p>
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>ご家族には会議の意義をより理解していただき意見や質問などを引き出しやすい雰囲気作り、参加しやすい状況の取り組みを行っていきたい。(曜日設定の検討で家族様の参加も多い時もあった)</p>
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>外部で学習した情報を全職員で理解し共有できるように、定期的な勉強会の内容に取り入れていく予定としている。</p>
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の説明をおこなっているが、納得していただけるよう質問を受け入れたりしている。また、契約時だけではなく日常的や解約時の場合でも管理者や計画作成担当者が窓口となりおこなっている。(退居時は転居先への情報提供等により継続しての支援実施)	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や計画作成担当者が苦情、要望の対応窓口になっている。利用者にはいつでも気軽に来れる体制ができており、必要に応じ相談等に応じている。第三者委員の方にも月1回来ていただき、相談や話を聞き入れてもらったりしている。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、月初めにおたよりを送付し金銭の使用状況や健康面、精神面等、生活状況を含めた状態報告をしている。また、面会時にもそのつど状態報告をおこなっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や計画作成担当者が対応窓口になっている。また、契約時には苦情解決のしくみについて説明をおこなっている。その他、当事業所の玄関先の見やすいところに苦情解決のしくみについてを掲示し、苦情、相談ポストの設置もしている。	○
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	処遇改善会議の場で意見や提案を聞く機会を設けている。出された意見や提案は管理者から運営者に報告している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15 ○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	処遇改善会議の場で利用者の状態に合わせた最適な業務を検討して改善に努めている。また必要時は勤務調整もおこなえるよう職員の確保にも努めている。	○	夜間等の緊急時の対応については、速やかに対応出来る様マニュアル作成に取り組んでおり、試行的に実施している。今後、見直ししながら取り組みは継続していきたい。
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を維持していくため、人事異動はやむを得ない場合のみの必要最低限の範囲でおこなっている。離職の場合には早急に新規の職員の補充に努め、利用者に不安や負担がかからないよう配慮しながら引き継ぎをしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規の採用後1ヶ月程度は新人の育成期間として、職員のマンツーマンで業務につき、指導をおこなっている。また1ヶ月に1回勉強会を開催し、知識や技術の向上に努めている。その他必要に応じて外部の研修にも派遣している。	○	学習委員会設置し、1年間の目標と計画に沿った勉強会を毎月1度は行っている。全職員の研修、受講の機会を作り知識の獲とくと、質の確保、向上を目指したい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会や市のグループホーム協議会に加盟している。そこで開催している研修や懇親会等には管理者を中心としながら他の職員も含め、積極的に参加している。	○	研修や懇親会を通じて同業者との交流、連携が確保出来、相互的に訪問などの活動を取り入れサービスのメニューを多くし、個別の生活に取り入れると共に職員の育成につなげたい。
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年間5回程度の職員間の親睦会を開催しており、交流を深めたりストレス解消の場としている。	○	管理者と職員との面談を行い、業務についてや、対人関係、介護に対する個人の考えなど話し合う機会をもてるようにしていきたい。又介護に対してのビジョンを持つ事により達成感が持てるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得への意識が向上心につながるという考え 方から、目指している資格についてのアンケート や、現在取得可能な資格についての話し合いをお こなっている。資格取得に向け、各自が向上心 を持っていただくように法人全体で努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21 ○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等 が困っていること、不安なこと、求めている こと等をよく聴く機会をつくり、受けと める努力をしている	入所に至るまでの情報や本人、家族の要望につい て、できる限りの把握に努め、処遇の向上にむけ ていけるようにしている。		
22 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その 時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向や状況の把握を担当の介護支援 専門員の協力もおおぎながら検討し、適切なサー ビスであるかを判断している。		
23 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用する ために、職員や他の利用者、場の 雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している	入所前に事前調査をおこない、職員間で情報の共 有に努めている。入所間もない時期は不安や混乱 がみられやすいことも想定にいれ、ご家族には慣 れるまでグループホーム内で一緒に過ごす期間を 多くしていただくよう協力してもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の業務の中で、利用者とは話したりする時間をもつように努めている。その中で食事や裁縫、編み物等について利用者から学んだり、過去の出来事を話していただいたりする場面が多くみられ、共に楽しく過ごされている。	
25	○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時等に状態報告をする他、家族の意見や要望を聞き入れたり、日常的な会話もすることで信頼関係を構築している。	
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族がどのような関係であるかを把握し、それに合わせた支援をおこなっていく。必要に応じて面会や外出、外泊の要請もおこなっている。	○  毎月の行事への家族参加を取り入れており、日帰り旅行等は、家族同伴を声がけし、本人、家族、職員とのよりよい時間が共有できる様に試行している。継続していく予定である。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場について、情報収集が不十分であったり、現実的に支援が難しい事が多く、利用者が満足できる対応が困難な状況である。	○  家族や親類等に協力をあおぎながら本人の望んでいることを実現していくよう努めていく。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係は職員間で把握している。仲の良くない方やトラブルの可能性がある場合等、さりげない配慮をおこなっている。また孤立するような状況の時は職員が間に入るなどして対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期の入院でやむを得ず退所となった場合等、退所後も医療機関との連携や、退院後に新たな福祉施設でのサービスを利用する際に協力をするなど、必要に応じて取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や普段の暮らし方の中から、一人ひとり個別に本人の意向の把握に努めている。本人が何を望んでいるかを第一に考え介護計画に反映させて取り組んでいる。	○	職員の学習を通してアセスメントの活用を更に充実していくことで自分の思いを表現できない利用者を理解していきたい。
31 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前利用されていたサービス関係者や病院の関係者から情報収集するよう努めている。しかしながら、場合によっては生活歴や入所前の生活環境が十分に把握できない事がある。	○	独居や家族関係等の事情で把握が困難な場合がある。本人とのコミュニケーションの中から探っていく事などで、できる限りの把握に努めたい。
32 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の観察の中から個別に把握している。処遇改善会議やケース検討会議の場で総合的な判断をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ケース検討会議の場で職員全員参加のもとで検討し、全職員の意見を反映させた介護計画を作成している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
36	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	空床利用のショートステイは準備が整いしだい実施していく方針である。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
37	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
38	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席していただきアドバイスを受けながら協力体制の構築に努めている。介護予防認知症対応型共同生活介護事業所としての登録はおこなっているが、現在対象の利用者は入所されていない。		
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所契約時に病院受診についての意向を確認している。もともとのかかりつけ医があり、希望があるのであれば、関係を継続していけるよう支援できる体制にある。受診結果はその都度家族に報告し、結果に必要な対応はできている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関は認知症の専門医ではないが認知症に対する理解があり、認知症高齢者に対して配慮してもらっている。また、認知症に対して専門の治療が希望される場合には、専門医を紹介してもらう等の体制ができている。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	計画作成担当者兼看護職が健康管理や医療機関への支援を行っており、緊急時の対応もできている。	○	24時間対応できる様な体制を整えていきたい。 (緊急時の対応マニュアル作成し、時々訓練も行っている)
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合は、情報提供書を看護職が作成提供をしている。また、原則1週間に1回程度、職員が入院先を訪問して状態観察や今後の治療予定等の情報交換をおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	今後、終末期における指針の作成や、入所契約時に確認していく事、定期的に話し合いを持つことを検討している。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○	重度化や終末期における取り組みについて、マニュアルを作成するなどして、方針を明確にしていきたい。
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		個別に声かけや対応についてを工夫しておこなっている。個人情報については入所契約時に説明し同意を得る事としている。職員については個人情報保護についての説明と、誓約書を記入してもらっている。誓約書は定期的に更新する事で意識の低下を防止している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分で決定したり、希望を表したりできる場を日々の生活の中で意識的に引き出ししている。食事のメニューや余暇活動の内容、外出先や買い物について等。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が生活していくペースを尊重して支援していく事が前提である事を職員が共有して理解できているが、起床、食事、入浴等の日課については全て利用者の希望に添うことは難しい。若干の内容変更で本人のペースを大切にしている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類等はできる限り自分で好きな物を選んで着ていただくよう支援している。化粧等も好みに合わせておこなっていただき、理・美容についても希望にそって支援する体制はできている。		
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設の通所事業所と同様のものを提供しているが、朝、夕食については利用者と一緒に献立を立てたり、買い物も希望にそって一緒に出かけている。また、調理に関しては個々の能力を把握し、できる範囲で米とぎや皮むき等おこなってもらっている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々に好みのものを購入していただきながら、好きなものを楽しめるように支援している。また、たばこについては現在喫煙される方はいないが、希望があれば場所は指定があるものの、喫煙できる体制にはある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握をして、時間帯に合わせ個別の対応で支援している。また、オムツはできる限り使用しないで、トイレで排泄できるように介護計画にも取り入れながら支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯はある程度決まっているが、入浴する時は一人ひとり時間を制限せずにゆっくりとくつろいで入れるように配慮している。	○	いつでも好きな時に入浴できるのが理想的ではあるが、曜日、時間帯を決めずに入浴を実施する事は現在の体制では困難である。時間帯、曜日は利用者からの希望にそって決定している。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の生活パターンや夜間帯の観察から個々の睡眠の状況を把握している。不眠の状況が多くみられたりする場合には、日中に寝すぎないようにさりげなく刺激をあたえたりして、自然に夜間の安眠につなげていけるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の準備や後片付け、金魚の餌やり、庭の草取り等、利用者が意欲をもっているものについて、個別に能力を考慮して楽しく安全におこなえるよう支援している。		
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の金銭管理能力を把握して、ある程度の金銭は管理してもらっている。買い物への外出時など、自分で支払ってもらう事で金銭管理能力の維持、向上にも努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者個々の希望にそって、散歩やドライブ、庭での日向ぼっこや草取り、買い物等、職員が付き添ってではあるが、日常的に外出の支援をしている。		
59 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事予定の中で外出行事を多く企画して実施している。外出先は利用者の希望を取り入れながら決定している。また家族との外出も特に制限なくおこなってもらっている。	○	日帰り旅行には家族にも声をかけ希望した場合は同伴をしていただき、家族との楽しい時間を持って頂いている。試行的なため今後も検討し継続したい。
60 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は必要物品の購入や送付の面で必要があれば支援している。電話についても基本的にはいつでもかけられるように操作等の支援をおこなっているが、相手方に迷惑がかかるような状況にならないよう配慮している。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には気軽に訪問しやすいような雰囲気作りを心がけている。各部屋にて利用者とゆっくりと過ごせるようになっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
62 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなわないという事を職員全体で意識している。また身体拘束にあたる行為がどのようなものか、やむを得ずしなければならない場合はどうすればよいかを会議の場などで職員全員が学習している。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者活動時間は見守れる体制作りに努めているため、玄関に鍵はかけていない。		
64 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が日常的に過ごされている共用ホールには常に職員が配置されている体制がある。また、部屋で過ごされている場合でも、定期的にさりげない見守りをおこなっている。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者についてどのような物が危険になるのかを個別で把握しており、なくすのではなく見守りで防止していくよう努めている。	○	針とはさみは必要時利用者本人に手渡しし、朝、夕の申し送り時は定数を確認し、申し送りと管理をしている。
66 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に救命救急法の外部研修に職員を派遣したり、勉強会で職員全体で学ぶ機会をつくっている。また、防災訓練も月1回実施している。	○	安全管理委員会が主体となり、マニュアル作成とヒヤリハットに対しての対応と防止についてのミーティングや学習会をおこなっている。
67 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救命救急法の外部研修に職員を派遣したり、勉強会で職員全体で学ぶ機会をつくっている。		
68 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回防災訓練を実施している。その他、年間2回総合防災訓練として消防署の隊員にも参加してもらっていて、助言もいただいている。地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加している。また、災害時には地域の方々より協力を得られる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	医師より説明されている疾病から今後おこりえる可能性があるリスクについては、ご家族にも報告して情報の共有を図っている。その中で今後の方針や対応について話し合いをおこない、決定している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
70 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々で定期でのバイタル測定を実施している。また、必要時は随時測定をおこなっており、健康管理表に記録して全職員で情報の共有ができています。経過や状態の変化がすぐに把握できるようケース記録と一緒に保管している。体調変化時は看護職に報告、医療機関との指示を仰ぐ		
71 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については個別に一覧表にしてあり、内容や服薬時期まで明記してあり、全職員で情報の共有ができています。薬の管理についても複数の職員で確認する体制になっていて、誤薬の防止にも努めています。	○	利用者が内服されている薬に対して、薬効、副作用などの勉強会を行い、薬に対する理解を深めることで誤薬の防止を図り、体調管理にも繋いでいきたい。
72 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便周期について排泄チェック表に記録しており、把握ができています。便秘傾向がみられている時は排便を促す飲食物をすすめたり、軽運動をすすめたりして便秘予防に努めています。		
73 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や就寝前、毎食後に個別で歯みがきやうがい、義歯洗浄をすすめている。能力に合わせ自力でおこなってもらったり、不十分な部分を支援したりしている。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は全利用者がケース記録に記録して把握に努めている。飲水量については水分のコントロールが必要な方については、飲水量のチェックをおこない把握に努め、必要時には支援している。また、食事メニューは昼食は栄養士の作成した献立にもとづいており、朝、夕食についても定期的に栄養士に確認してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 ○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防の各種マニュアルを整備し全職員で情報の共有をしている。流行の時期には最新の情報に基づき情報を更新し、処遇改善会議の場で、対策について話し合いをおこなうなどして注意をはらっている。		
76 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は原則として毎日使用するものだけを購入している。また、布巾、包丁、まな板はそのつど消毒し、冷蔵庫は定期的に清掃日を決めて衛生管理に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> <b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に表示をつけているが、玄関がわかりにくいという話がよく聞かれる。	○	わかりやすいように文字や色、大きさ、設置する場所などの工夫をした看板を取り付けるなどして改善していきたい。
78 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用ホールのすぐ脇には台所があり、調理の時には音や臭いでの生活感が感じられる。また、ホールには季節の花や利用者と職員で作成した季節にそった飾り物を飾ったりしている。		
79 ○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールにはソファもあり利用者一人ひとりがすきな所に座って会話を楽しんだり、自由にくつろいで過ごせる空間にある。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
82	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)